
ぶどう

吉良ラスク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぶどう

【Nコード】

N5891C

【作者名】

吉良ラスク

【あらすじ】

ぶどうが好きな女性。その理由は過去の悲しい出来事が元だった。

私はぶどうが好きだ。

プツン 房の中から一つもぎ取る

プチュ ブドウの身を押し出し

ツルン 口の中に滑りこませる

ゴクン 種は出さない そのまま丸呑みする

甘く芳醇な果実は私の食道を蠕動運動に任せて通過し、胃に落ちる。この喉越しがたまらない。

去年の夏、私は妊娠した。結婚10年目にして授かった待望の赤ちゃんに、私たち夫婦は両手を挙げて喜んだ。

しかし、喜びもつかの間。産婦人科の先生からこう告げられる。

「胞状奇胎妊娠です」

受精卵から胎児の形にならず、丸い細胞だけが増殖した状態。

出産は勿論無理だった。それどころか、ちゃんと処置をして子宮内を掃除し、細胞を一つ残らず除去しておかないと、残った細胞から絨毛癌と言う癌が発生する危険もあるのだそうだ。

私達は考える余地などなく、初めての子どもを医師の処置で子宮から取り除くことを決定した。

「この病気は丸い細胞が房をなしているように見えるその状態から、”ブドウっ子”と呼ばれることがあります」

医師は手術前、素人の私たちにも分かりやすく理解出来るために

そんな説明をした。その場面が今でも鮮明に思い出される。

あの時、諦めることを決めた私の赤ちゃん。今度こそ、あなたを産んであげる。

「今度こそ、ぶどうの様にはさせはしないわ・・・」

私は今日もそう呟きながら、ぶどうを食べる。

想像の中で、あの日のあかちゃんの細胞を食べる。私の体から取り出されたブドウっ子の魂をもう一度私の体の中に招き入れる為に・・・。

私はぶどうが大好きだ。

（後書き）

今日のお昼のデザートがぶどうでした。

そこから何かホラーなものを考えられないかな？と思って書きました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5891c/>

ぶどう

2010年11月20日03時08分発行